399　早期痴呆患者の^{123}I-IMP脳血流SPECTによる経時的変化の検討

間島寧興、野上修二、荻原眞理、丹野宗彦、千葉一夫（都老医セ　核放）、吉越富久夫、大石幸彦（慈医大泌）、成瀬昭二（京府医大　脳外）

最近、痴呆疾患の病態解明において、純粋な病態時期における解明の重要性が問われてきている。すなわち、痴呆病態の純粋な時期である早期の診断方法が必要となってきた。このため、経時的診断等にて、早期痴呆と診断できた症例の^{123}I-IMP脳血流SPECT等による早期診断所見および経時的所見の観察がおこなえたの報告する。早期痴呆患者（アルツハイマー病、ピック病）におけるSPECT所見は、明らかな欠損病変は認められなかったが、経時変化とともに典型的アルツハイマー病型（側頭頭頂葉の血流低下）およびピック病型（前頭葉の血流低下）の所見を呈し、病期診断にはSPECTが必要と考えられた。

400　アルツハイマー型痴呆における脳血流分布の経時的変化

中野正剛，羽生春夫，阿部晋衛，新井久之，高崎　優（東京医大老年科），鈴木孝成，阿部公彦，網野三郎（　同　放射線科）

アルツハイマー型痴呆(DAT) における脳血流分布の経時的変化を検討した．15例のDAT患者(観察期間１～４年の間に全例進行性の知的機能の低下を認めた）を対象とし，SPECT による脳血流分布を定性的，半定量的に検討した．SPECT 所見の経時的変化は症例により異なり，一側または両側の側頭頭頂葉から血流低下が始まり，病状の進行に伴い前頭葉，さらに広範な大脳皮質領域での血低下が加わる典型的変化の他に，病初期より前頭葉の血流低下を認める例や，びまん性の血流低下に引き続き側頭頭頂葉の血流低下が加わる例，左右非対称的な血流低下がみられる例など種々の変化が観察された．

401　アルツハイマー型痴呆における側頭葉内側部萎縮と大脳皮質血流量との関連

新井久之，羽生春夫，中野正剛，阿部晋衛，高崎　優（東京医大老年科），鈴木孝成，阿部公彦，網野三郎（　同　放射線科）

アルツハイマー型痴呆(DAT) では側頭葉内側部の他に大脳皮質領域にも高度な病理学的変性が認められる．この局所的な関連を形態的，機能的に検討した．側頭葉内側部の萎縮の指標としてMRI による側脳室下角面積を計測し，大脳皮質領域の機能障害はSPECT による局所脳血流量から評価した．両者の左右差指数から局所的関連を求めると，側脳室下角面積と後頭葉を除く各大脳皮質領域での脳血流量の左右差には有意な正の相関が認められた．したがって，DAT では側頭葉内側部と広範な大脳皮質領域での形態的，機能的関連が示唆された．

402　痴呆老人におけるSPECT所見、MRI所見と各種痴呆スケールの比較

山口 慶一郎[1]，堀川 歩[1]，山崎 英樹[2]，目黒 謙一[3]，勝山 直文[1]，中野 政雄[1]（[1]琉大放，[2]東北大精神，[3]東北大老人）

各種痴呆スケールの得点と脳血流分布、およびMRを用いた脳局所変化との関係について検討した。精神科医によって老年期痴呆と診断された８０人と正常と診断された１５人を用いた。　痴呆スケールにはMMS,N-ADL,MFISを用いた。I-123 IMPを用いた持続動脈採血法にて脳血流の定量を行ない脳内の血流分布を得た。MRIでの脳内変化を皮質、白質変化に分け変化の局在を検討した。　MMS低下群、およびADL低下群では脳血流低下部位に一致した病的変化がMRI上で認められた。しかしMFISによる判定ではMRI所見とSPECT所見で解離が認められた。

403　SPECTとMRIを用いたアルツハイマー病の画像診断

羽生春夫，中野正剛，阿部晋衛，新井久之，高崎　優（東京医大老年科），鈴木孝成，阿部公彦，網野三郎（　同　放射線科）

アルツハイマー病(AD)の画像診断を確立する目的で，SPECTによる側頭頭頂葉の血流低下所見とMRIによる側頭葉内側部の萎縮所見を評価し，AD患者と健常老年者で比較検討した．SPECTやMRI検査単独でもおよそ80%台の診断率が得られたが，早期診断には必ずしも十分なものではなかった．しかし，両検査の併用によりさらに高い診断精度（90%以上の感度や特異性）が得られ，軽症例や病初期例についても高い検出率が得られたことから，早期診断にも有用と考えられた．両検査の併用による側頭葉内側部および側頭頭頂葉における形態的，機能的変化の検出はADの診断に活用できると考えられた．

404　痴呆疾患の海馬血流の評価

宮崎医大放射線科　大西隆，星博昭，陣之内正史，長町茂樹，二見繁美，Leo Flores II，渡辺克司

アルツハイマー型痴呆(DAT)を含む痴呆疾患20例，対照例8例，TGAなどの痴呆を示さない疾患6例を対象とし，三検出器型SPECTを用いて海馬血流を評価した．放射性医薬品はHM-PAOを使用した．DAT，MIDでは対照例に比し，有意に海馬血流は低下していた．しかしTGAにおいても海馬血流は低下していた．海馬血流の低下は痴呆の重症度，記憶障害の程度をよく反映していた．これらのことより海馬血流低下は記憶，記銘力障害という病態を反映しているものと考えられた．

Presented by Medical*Online